

## 11月1日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①鳩山氏クリミア訪問、エセ右翼団体・一水会も同行していた(Yahoo!Japan 知恵袋、2015年3月15日) ちょっと古いが・・・

ロシア『Sputnik International』によれば、鳩山氏はクリミアでの会見で、「ロシアとの再統合を選んだ昨年の住民投票は、ウクライナの憲法に則り、平和的に民主的手順に従って行われたもので、クリミア住民の真意を現したものだ」と語っている。

それゆえ、同氏は西側のロシアへの制裁には反対しており、本来「アメリカから離れ、独立した」外交政策を追求すべき日本が、圧力を受け制裁に参加したことを問題視。日露関係の改善が急務だと述べたという。

AFP も、鳩山氏の、日本は「西側、何よりもまずアメリカ」にならってきたというコメントを紹介。「日本と西側のメディアからの情報が、一方に偏したものであることは恥ずべき。

真に存在する事実を公に知らしめるための勇気を持たねばならない」と述べたという。

鳩山氏のクリミア訪問団には、新右翼政治団体『一水会』のリーダー、木村三浩氏も同行している。一水会は「対米自立」を掲げ、以前からアメリカ寄りの政策を批判してきた。その部分で鳩山氏と考えが一致したようだ。AFP によれば、木村氏は、今回のクリミア訪問は「歴史的」で、「日本の外交政策に影響を与え、それを変えるチャンスになるかもしれない」と述べたという。



左:鳩山、右:木村

[https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q11143154186?fr=sc\\_scdd&\\_ysp=c3B1dG5payDjgqbjpgq%2Fjg6njgqTjg4o%3D](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11143154186?fr=sc_scdd&_ysp=c3B1dG5payDjgqbjpgq%2Fjg6njgqTjg4o%3D)

### ②歴史学者・ハラリ氏緊急インタビュー「イスラエル人もパレスチナ人も“苦痛の海”にいるからこそ」【ユヴァル・ノア・ハラリ】【Yuval Noah Harari】【報ステ ノーカット】(2023年10月20日)

世界的に著名な歴史学者であり、イスラエル人のユヴァル・ノア・ハラリ氏。

ハマスのテロ攻撃により急激に緊張が高まっているパレスチナ情勢について、緊急インタビューを行いました。歴史の転換点をいま、ハラリ氏は複雑な思いで見つめています。

徳永有美キャスターによるインタビューのノーカット版です。

<https://youtu.be/eVhGKMmqikY>



<https://www.youtube.com/watch?v=eVhGKMmqikY>

### ③【30 日のニュース】ショイグ露国防相が訪中 イスラエル軍戦車、ガザ市郊外まで進軍か(Sputnik, 2023 年 10 月 30 日)

世界では毎日様々な出来事が起こっている。ここでは 30 日の国際ニュースをダイジェストでお届けする。

#### ウクライナ情勢

##### 露国防相、中国を訪問

ロシアのセルゲイ・ショイグ国防相は 30 日、中国・北京を訪問。安全保障について論じる国際会議・第 10 回「香山フォーラム」に参加した中で、「今夏開始された反攻作戦においてウクライナ軍は戦場で重大な成果を上げることなく、9 万人以上の兵士が死傷した」と述べた。

また、ショイグ国防相は、中国国家中央軍事委員会の張又俠(ちょう・ゆうきょう)副主席と会談し、露中の戦略的連携の強化を訴えた。

##### 黒海にウクライナ軍の水上ドローン

露国防省は 30 日、黒海でウクライナ軍の無人艦艇 2 隻を発見し、攻撃したと発表した。クリミア半島のロシア海軍の拠点、セバストポリ港の外側では、機雷対策や妨害工作対策が行われているという。



## イスラエル・パレスチナ紛争

### イスラエル戦車、ガザ郊外に到達との情報

イスラエル軍は 30 日、過去数日間にパレスチナ・ガザ地区でハマスの拠点 600 カ所以上を攻撃したと発表した。イスラエル側が作戦拡大を宣言して以降、地上での作戦も進んでいる。イスラエル軍戦車が地区北部に進軍し、ガザ市郊外の幹線道路を寸断したとする情報もある。

### ネタニヤフ首相、発言炎上で謝罪

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相は 29 日、SNS 上で軍や特殊機関を批判したことが問題視され、謝罪に追い込まれた。ネタニヤフ首相は同日、「ハマスの軍事的意図について特殊機関から報告はなかった」と、10 月 7 日のハマスの奇襲を許した責任を軍に転嫁したともとれる投稿をしていた。

この投稿に対する批判を受け、ネタニヤフ首相は「私が間違っていた。あんなことを言うべきではなかったし、謝罪する」と投稿。そして軍指導部の決定や司令官、兵士を完全に支持すると表明し、「共に勝利を」と国民の結束を訴えた。



### ダゲスタン空港騒動

#### 20 人以上けが

29～30 日にかけての夜、ロシア南部・ダゲスタン共和国の首都マハチカラの空港が暴徒化した市民らによって襲撃される騒動があった。空港に侵入した市民はイスラエルからの到着機の乗客を探して、こうした拳に出た模様。ダゲスタン共和国はイスラム教徒の住民が大半を占めている。

この騒動で少なくとも警察官 9 人と市民 10 人以上がけがをした。市民のうち 2 人は重傷だという。警察は騒動に参加した 150 人以上を特定。そのうち 60 人が連行され、取り調べが行われた。

当局は「状況は完全に制御されている」としており、当初は 11 月 6 日まで閉鎖を続ける予定だったが、その後今月 31 日にも運航を再開すると発表した。

#### 社会分断狙った干渉と主張

騒動を受け、ダゲスタン共和国のセルゲイ・メリコフ首長は、「参加した者は裏切り者だ」と強く非難。また、メリコフ首長は「この暴動をけしかけたのは、もちろんウクライナ領内にいる敵だと私はみなしている」と主張した。

ドミトリー・ペスコフ露大統領報道官も、「マハチカラ空港で昨晚起きた出来事は、情報工作を含む外からの干渉の結果だ」との見方を示した。また、ウラジーミル・プーチン大統領は 30 日、治安機関トップらとの会議を行い、「中東の出来事を利用して露社会の分断を図る西側諸国による試み」について議論する予定だという。



<https://sputniknews.jp/20231030/30-17569135.html>

#### ④「元来の武器が今や標的」 宇軍供与のストームシャドウの辿った運命 = 露軍事専門家(2023年10月31日)

10月30日、ロシア国防省は、ウクライナ軍がクリミアを攻撃しようと撃ち込んだ8発のミサイル「ストームシャドウ」を阻止したと発表した。軍事専門家で防空軍博物館のユーリー・クヌートフ館長はスプートニクからの取材に、ストームシャドウはロシアの防空システムにとっては、日常的に迎撃される標的になっていると述べている。

「ウクライナ軍にこれらのミサイル(ストームシャドウ)が登場した当初は、それに対処するのはかなり難しかった。しかしその後、ロシアはこのミサイルの1発の迎撃に成功し、ミサイルはほぼ無傷で地上に落下した。このミサイルが研究された結果、その特性、反射断面積、飛行を制御する電子機器が解明されたため、とりわけ電子戦システムの使用が可能になった。地对空ミサイル・システムの使用に関しては、ミサイルの飛行アルゴリズムが研究され、それに従って、ロシアのシステム・プログラムに追加がなされた。その結果、我々の防空ミサイルシステムは自動モードで極めて高い命中率でこれらのミサイルに命中させることができる。

(ユーリー・クヌートフ(軍事専門家))

こうした状況を、同様の特性のミサイルを保有する他のNATO諸国も考慮しているとクヌートフ氏は語っている。

「スカルプもストームシャドウも日常的な標的になっている。ドイツはこのことを知っているため、現段階ではタウルス・ミサイルを出さないようにしている。その技術が我々に握られ、独ミサイルがロシアの標的にならないためだ」

ユーリー・クヌートフ(軍事専門家)



<https://sputniknews.jp/20231031/17576081.html>

#### ⑤中東情勢は嘘、煽動、暴力も動員して分断のために悪用されている = プーチン大統領(2023年10月31日)

プーチン大統領はマハチカラ空港の事件についての会議の席で、中東のドラマティックな状況やその他の地域紛争が、多民族かつ多宗教世界のロシアを不安定化し、分断させるために悪用されていると明言した。

プーチン大統領は、米国はカオスを悪用し、自国のライバルを抑圧、不安定させることを望んでいるとし、中東情勢もこれと同じく、米国は流血の惨事を止めようとする人間を失態させ、「国連でさえも嫌がらせを受けている」と語った。

「米国には聖地の恒久平和は要らない。中東で米国に必要なのは恒常的なカオスだ。だから、ガザ地区の戦闘の即刻停止を訴え、流血の惨事を止め、危機の調停に貢献する構えの諸国をなんとか失態させようとするのだ」

ウラジーミル・プーチン(ロシアの大統領)

プーチン大統領は、中東に関するロシアの立場に私欲も二重底も一度もあったことはなく、問題解決のカギは完全なパレスチナ国家の建設にあると指摘した。

#### マハチカラ空港の事件について

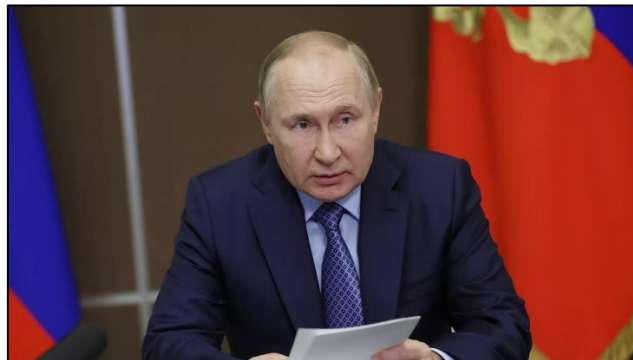
「昨夜のマハチカラの事件は SNS も通じて煽動されたものだ。ウクライナ領内からも働きかけもではない。西側の特務機関エージェントが手を染めている」

ウラジーミル・プーチン(ロシアの大統領)

プーチン大統領は、ウクライナ政権は自分らの庇護者の手引きでロシア国内で大量虐殺を組織しようとしていると指摘した。

プーチン大統領は、イスラエル国民を憂慮するというような人には、「ロシアで大量虐殺を煽動しよう」とウクライナに展開する米国の特務機関の活動を調査するよう提案した。

10月29日、ロシアのダゲスタン共和国の首都マハチカラの空港では、テルアビブからの便が到着した後、地元市民が滑走路に侵入した。不法侵入の市民らはイスラエルから到着した乗客を探していたと見られており、騒乱が始まった。



<https://sputniknews.jp/20231031/17576777.html>

### ⑥欧州理事会でのゼレンスキー氏の演説は「無関心で迎えられた」=スロバキア首相(2023年10月31日)

欧州理事会の参加者らは、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領の演説を無関心で迎えた。スロバキアのロベルト・フィツォ首相が、フェイスブック(フェイスブックを展開する Meta 社は過激派団体としてロシアで活動禁止)上でこのように語った。

ゼレンスキー氏のビデオ演説は 26 日に行われた。

フィツォ首相は「欧州理事会の会議で、ゼレンスキー氏のビデオメッセージが無関心で迎えられたの

を見たとき、私は全く驚かなかった。時代は変わりつつある」とし、「最近まで、ゼレンスキー氏はどこでも拍手で迎えられたが、今では、一部の議会では、かつて米議会で行われたような演説を行うことが許されていない」と指摘した。

フィツォ首相によれば、欧州理事会のウクライナに関する協議では「ひどい疲労感」が感じられたという。

フィツォ首相はまた、EU はウクライナに関する米国の政策を真似ており、世界的な計画を提案する代わりにウクライナに資金と武器を送り続けているとの見解を示した。

「EU には独自の外交政策がない。そのため『ここには何十億ユーロもある、ここには武器がある、殺してください、あとはただ放っておいてください』というような戦略を無力に続けるだけだ」とフィツォ首相は締めくくった。

近頃、西側メディアはウクライナ紛争による西側の疲弊やゼレンスキー氏支持の弱まりについて報じることが増えている。ウクライナのドミトロ・クレバ外相もまた、ウクライナの実務国との対話を求める声が大きくなり、グローバル・サウスの関係者らに対しては、明確にウクライナを支持するよう説得することができないと認めた。



<https://sputniknews.jp/20231031/17578319.html>

## ⑦イスラエルはハマスの停戦に同意しない = ネタニヤフ首相 米国も停戦に反対 (2023年10月31日)

イスラエルはパレスチナのイスラム組織・ハマスの停戦に同意しない。停戦への呼びかけはイスラエルがハマスの屈服し、降伏することを意味する。イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相がこのように表明した。

ネタニヤフ首相は、30日の会見で「停戦に関するイスラエルの立場を明確にしたい。米国が真珠湾攻撃や9.11の後に停戦に同意しなかったように、イスラエルも10月7日の恐ろしい攻撃の後にハマスに対する軍事行動を停止することには同意しない」とし、「停戦への呼びかけは、ハマスのテロ、蛮行に屈することを意味する。そんなことは起こらないだろう」と語った。

### 米国もガザでの停戦に反対

一方、米国家安全保障会議(NSC)のジョン・カービー戦略広報調整官もまた30日、米国はガザ地区での停戦に反対すると表明。停戦という動きはハマスの「利益をもたらす」ためだと述べた。

カービー氏は、記者団に対し「我々は現時点で停戦が正しい解決策だとは思っていない。我々の見解では、停戦はハマスの利益をもたらすだろう」と話した。

米当局によれば、ガザでの停戦により「恩恵を受けるのはハマスのみ」であり、このため米国は戦闘行為の停止を「支持しない」とカービー氏は強調した。

米務省のマシュー・ミラー報道官は23日の定例会見で、ハマスの停戦を利用してイスラエルへの

攻撃を継続することへの懸念から、米政府はイスラエルとガザ地区との停戦案についてはその意味を  
考える必要があると述べていた。



<https://sputniknews.jp/20231031/17578126.html>

### ⑧トルコのエルドアン大統領の演説(2023年10月28日)

<https://youtu.be/OkQDzE4Cuw8>



<https://www.youtube.com/watch?v=OkQDzE4Cuw8>

### ⑨別の見方:ハマス幹部の息子の証言【イスラエルのための祈り(5)】(2023.10.23)

<https://youtu.be/2eu3APdlw2w>



<https://www.youtube.com/watch?v=2eu3APdlw2w>

## ⑩[寄稿]パレスチナを支持できないというあなたへ(ハンギョレ新聞、2023年10月28日)

キム・ジョン・ヒウォン | 米アリゾナ州立大学教授

残酷なニュースが続いたある夜遅く、親しい活動家からメッセージが届いた。かなり緊急のようだった。イスラエルの植民地支配に反対し、パレスチナの苦しみを知らないわけではないが、民間人虐殺を行ったハマスのせいでパレスチナを支持できないという人々に、何と言えればいいのかという質問だった。「イスラエルも悪いが、パレスチナも悪い」という両非論に向き合うのは初めてではなかった。平和と人権という価値の前では、どちらも間違っているということだ。

このすべての事態がきれいな真空管の中で起きているなら、そのような意見にも一理あるかもしれない。イスラエルが殺害した民間人の数ははるかに多いという事実を伝えたいわけではない。マスコミの接近が難しく、フェイクニュースが飛び交っているから、ハマスの残酷行為が事実かどうかは分からないと主張したいわけでもない。なおさら、抑圧された民族を代弁して植民権力に対抗するハマスの暴力は無条件に正当だと叫ぶつもりは毛頭ない。むしろその逆だ。ハマスの民間人虐殺は正当ではない。そして、新しいハマスの出現を阻止する唯一の道は、まさにパレスチナの解放である。私たちは、一刻の猶予もなく、まさに今、パレスチナを支持すると言わなければならない。

1948年、土地を奪われ強制移住されて以来、ガザ地区の人々はどのような生活を送ってきたのか。先日、ガザ地区への電気供給が途絶え、手術を控えた患者が命の危険にさらされているという報道があった。とりあえず病院は非常発電機を稼働することはできるが、その燃料も数日後には底をつくという。ガザ地区全体が暗黒に陥り、今はすべての民間人の生存が脅かされているという。どうしてこんなことが可能なのかと、私たちはなぜ聞かないのか。戦時状況に水、ガス、電気がないのは当然だからか。戦争中に発電所を回すことは不可能だからか。

地上戦が展開される前に発電所が止まる理由は何か。それはそもそも燃料の供給も電気の供給もイスラエルの手にかかっているからだ。電気供給の3分の2はイスラエルが統制しており、残りの3分の1を担当するガザ地区の唯一の発電所は周期的にイスラエルの爆撃を受けている。そのため、ガザ地区の人々には24時間電気を使える日がなかった。国連の発表によると、2018年は1日平均7時間、2019年には1日平均12時間電気を使うことができた。それでも今年は戦争前まで1日13時間も電気が供給されたのだから、幸いだと言えるだろうか。もちろんイスラエルは発電所で使用する燃料を含め、他の物資の供給も意のままに統制できる。

だから、ガザ地区ではすべてが足りない。最小限の衣食住も、移動の自由も、言語と文化を守る自由も、職業選択の自由も、そして故郷に帰る自由も。あなたはこんな暮らしに数十年間耐え続けることができるか。今日生まれた自分の子どもが、いつ終わるかも分からずこのような人生を送らなければならないとしたら、怒らずにいられるだろうか。生存に必要なすべてのものが植民統治者の気まぐれと報復に左右される人生がどんなものか考えてみてほしい。ガザ地区のパレスチナ人たちは非常事態の中で生まれ、一生非常事態の中で暮らし、そのように非常事態の中で死んでいく。このように地獄を日常と化し、危機を永遠に引き延ばすのには何が必要だろうか。強い者の側に立つ者たちの共謀、それだけで十分だ。

私たちにも、奪われた野にも春は来るのかと聞かざるを得なかった時代があった。春が訪れるように、自然に解放が訪れるわけもなく、植民権力が善意で計画を変えるはずもない。世界の権力者と結託したイスラエルなら、なおさらだ。だからこそ、パレスチナはイスラエルに立ち向かい戦わなけれ



ばならず、私たちは皆の尊厳と自由のために共に戦うことを示さなければならない。この果てしない暴力を終わらせ、世界世論の地形図を変えられるのは、我々の連帯だけだ。

死んだも同然の状態で生きているのだから、パレスチナは抵抗せざるを得ない。交渉のテーブルに座ることもできず、平和の名で不当な強要を受けるよりは、むしろ被支配者の座から立ち上がり、力を振り絞って支配者と戦うこと、それがまさに自分たちの人間性をとり戻す道であるからだ。この切迫した闘争の根本原因が何かを考えているなら、ハマスを口実にパレスチナとの連帯を避けることはやめよう。非暴力はパレスチナに強要すべきものではなく、我々が引き出すものだ。そして非暴力の世界をより早く実現するために必要なのは、抑圧される人々の解放だ。だから、これから一緒に叫ぼう。パレスチナに自由を！



ガザ地区南部のハンユニスにあるナセル病院で 24 日(現地時間)、爆撃の被害者たちが治療を受けるのを待っている＝ハンユニス/AFP・聯合ニュース

<https://japan.hani.co.kr/arti/opinion/48212.html?s=09>

## ①戦争は美味しい(2023年10月31日)

イスラエルのニーズも増えたため、ウクライナに提供してきた155ミリ砲弾の値段を4倍にした。一発を打てば20人のウクライナ人の月給が飛ぶが、軍事関連企業の利益が数倍も増える。その利益を得るのはユダヤ資本のウォール街と献金を受ける政治家達。戦争は美味しくてやめられない米国。



<https://twitter.com/sohbunshu/status/1719117593074893123>


## ⑫国境なき記者団の発表(2023年10月31日)

国境なき記者団(RSF)は、イスラエル軍がイスラエル・ハマス紛争取材していた外国人ジャーナリストを標的にして砲撃したことを確認したと発表した。この襲撃でロイターの報道写真記者1人が死亡、AFP特派員1人が重傷を負った。国境なき記者団(MSF)は1日(現地時間)、戦争現場取材していた外国人ジャーナリストに対するイスラエル軍の標的型攻撃の正確性を確認したとウェブサイト上で標的型攻撃の疑いを提起した。同団体は、午後1時にイスラエル国境から2回の砲撃があったことを確認したと発表した。12月29日、ジャーナリストたちがイスラエルとレバノンの国境から取材していたとき。国境なき記者団は、「現場で撮影された映像を弾道ミサイル専門家が分析し、砲弾が東側、イスラエル国境方向から飛来したことが確認された」と伝えた。



[https://m.hani.co.kr/arti/international/international\\_general/1114385.html?s=09](https://m.hani.co.kr/arti/international/international_general/1114385.html?s=09)

## ⑬ロシア大使館の見解(2023年10月31日)

<p> The Embassy of the Russian Federation in Japan 1時間前 · 🌐</p> <p>🇷🇺 🇮🇱 パレスチナ問題を含む中東情勢に関する国連安保理会合でのネベンジャ常駐代表の発言より</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 占領されたパレスチナ地域（ヨルダン川西岸およびガザ地区）では、未曾有の人道的大惨事が繰り返されている。</li><li>◆ ガザ地区は、実質的に完全封鎖された。インターネットもモバイル通信も遮断されたガザ地区は、今や完全に外部世界から隔離されている。この地区で現在何が起きているか、確かなことは誰にもわからない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 激しい戦闘活動が展開される中、人道的措置は事実上、名ばかりのものとなっている。エジプトからの唯一の検問所であるラファ検問所を10月21日以降に通過したトラックの数はわずか94台であるが、イスラエルはこのわずかな物資の供給さえ妨害しているという証言も入ってきている。</li></ul> <p><b>!</b> この結果、ガザ地区では水、燃料、食料、医薬品等、あらゆる物資の不足が逼迫し、人々は恐怖と絶望に襲われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 多くの西側諸国を含め、国連加盟国の圧倒的多数は暴力を止める必要を唱えているが、イスラエルはこうした意見をこれ見よがしに無視している。</li></ul> <p>👉 今日の国際社会にとっての優先的な課題は、流血を止め、一般市民の被害を最小限に抑え、状況を政治外交的な路線に持ち込むことである。</p> <p>🇷🇺 現在の状況下で、ロシアは危機の早期解決に向けて『現地』の情勢のデ・エスカレーションに集中的に取り組んでいる。早急に戦いを停止し、人道回廊を確保して必要としているすべての人々に緊急に援助を提供しなければならない。この明確なメッセージを我々は関係者すべてに伝えた。</p>
--	---	--

[https://m.hani.co.kr/arti/international/international\\_general/1114385.html?s=09](https://m.hani.co.kr/arti/international/international_general/1114385.html?s=09)